H22.11.19

１．　第２回とよた森づくり委員会　会議録

◆日時：平成２２年１１月１９日(金)　　13：30～16：00

◆場所：御内市有林管理事務所、御内森づくり会議前山団地

◆参加者(22 名)

	委　員　名 （敬称略）	所　　属
委員：12 名 （正副会長 以下 50 音順）	（会長） 岡本　譲	元愛知県賀茂県有林事務所　所長
	（副会長） 中根　芳郎	豊田森林組合　代表理事組合長
	板谷　明美	三重大学大学院　生物資源学研究科森林環境資源利用学准教授
	稲垣　久義	矢作川水系森林ボランティア協議会
	蔵治　光一郎	東京大学大学院　農学生命科学研究科付属演習林愛知演習林　林長
	澤田　恵美子	豊田市消費者グループ連絡会会長
	鈴木　洌	森林所有者（和合地域森づくり会議関係者）
	鈴木　禎一	あさひ製材協同組合　専務理事
	中泉　祐子	公募委員
	山内　徹	公募委員
	山本　輝夫	連合愛知豊田地域協議会
	山本　薫久	ＮＰＯ法人「都市と農山村交流スローライフセンター」代表理事
オブザーバー：1 名	中村　雅之	愛知県豊田加茂農林水産事務所　林務課長
事務局：5 名	原田　保裕	豊田市役所産業部　森林担当専門監兼森林課長
	北岡　明彦	豊田市役所産業部　森林課　主幹
	鈴木　満	〃　副主幹
	安藤　貴義	〃　主査

説明者	矢澤　長介	御内森づくり会議　代表

◆添付資料
１．とよた森づくり委員会委員名簿

◆配布資料一覧
１．平成 22 年度第 2 回とよた森づくり委員会次第
２．資料１　御内森づくり会議 前山団地（平成 21 年度認定）の概要について
３．資料 2　平成 22 年度間伐実施状況

平成 22 年度　第 2 回とよた森づくり委員会　次第

１．あいさつ
２．議事
(1)　森づくり会議と団地化の事例研究について
（御内森づくり会議 前山団地を例に）
ア　御内森づくり会議前山団地の概要について（森林課）　…資料 1
イ　御内森づくり会議の現状と課題点について
（御内森づくり会議代表　矢澤　長介 氏）
ウ　前山団地現地視察

(2)　平成 22 年度間伐実施状況について　…資料 2

３．その他

□次回委員会の開催日(予定)：23 年 2 月末

開会　13：30

１．あいさつ

○事務局(原田課長)　：　本日は、遠く、森づくりの現場におこしいただきありがとうございます。定刻になりましたので、本年度2回目の森づくり委員会を開催させて、いただきます。

それでは、会長さんお願いします。

○岡本会長　：　皆さんご苦労様です。

今日は会場が少し寒いですが、ＨＯＴな会議でお願いします。

それでは、議事の（1）の「森づくり会議と団地化の事例研究について」説明をお願いします。

○事務局(鈴木副主幹)：　始めに、本日の会場の位置ですが、香嵐渓から東へ約13キロ、車では約30分、市の東端、御内町にある市有林管理事務所に来ていただいています。標高は約660ｍということもあり少し涼しい感じがします。

御内町の全面積は約1,830ha で、市有林、県有林、国有林を除いた約800ha が平成20年6月に設立した「御内森づくり会議」のエリアになります。

構成員は24名、全世帯の方が会議に賛同いただきスタートしました。

平成20年度は会議エリアの東端の金蔵連集落の裏山約13ha の杭入れを行い、続いて森林組合による測量。翌21年6月に東切・下切団地として計画策定するとともに、今回、後ほど見ていただく前山を団地設定しようと言うことになりました。8月には作業道の踏査。10月から2月にかけて杭入れや境界の草刈を地域独自で行っていたき、終了後は森林組合を中心に測量を行いました。

3月に策定した団地計画は、面積が61.56ha で、そのうち自力間伐が24ha、利用間伐が11ha となっており、昔から林業に力を入れてきた、この地域の特徴が現れた結果となっています。

また、この団地の地権者は9名で、売買によりこの地域以外の所有者が1名いました。この方も、代表の矢澤さんのおかげで、会議の構成員に加わり、虫食いなしの一団地が完成しました。

今年度は、既に、2団地65ha の団地計画が策定されており、3団地目も約30ha の杭入れが終わっています。

この団地の感想としては、杭打ちから境界の草刈りまで、ほぼ地域の方が主体的に進めていただき、雪がまだ残る中、1週間程度で測量を進めたことの他は、スムーズに進めたと思っています。

その他、資料1に添付された、森づくり団地計画総括表、図面、量図について説明

○岡本会長　：　それでは、ご質問、ご意見がありますか。

○蔵治委員　：　森づくり団地計画総括表で、同じ地番でも林層が違う場合、測量して計画しているという説明であったが、Ｄ所有者は、樹種、林齢、本数すべて同じだがどうしてか。

また、図面で「岡崎市」となっているところが抜けている訳は？

○事務局(鈴木副主幹)： D所有者の山林は、林道や作業道で分断されており、林層は同じだが道路部分を面積控除するため3回に分けて測量しています。
「岡崎市」と書いてあるところは、所有者が岡崎市であり、公有林を森づくり団地の対象としていないため控除しています。

○中泉委員　： 森づくり団地計画総括表で、間伐の実施年度が10年後のものはどういう訳か。

○事務局(鈴木副主幹)： 間伐間もない森林なので、しばらく間伐が必要でないところです。

○岡本会長　： 次に御内森づくり会議の現状と課題点についてお願いします。

○説明者(矢澤代表)　： 森づくり会議は市の熱心な勧めもあって、割りに早いうちに設置できたと思っています。
団地は会議エリアの東端から進めてきているが、今後西側をどうして行こうかと悩んでいる。つまり、西側は雑山が多く、労力の割に、団地交付金が控除されてしまうから。山としては、雑山でも杭を入れて管理していくことが大切だと思っているが、市の交付金の対象とはならない。
森づくり会議はリーダーシップをもって引っ張って行かないとできないと思う。自分でも10年前ではできなかったと思う。この10年で、地主の顔ぶれも代わり、境界や山に対しおおらかになったと思う。
正確な境界というより施業界という感覚で細かいことを言わずやって行こうという考えで理解してもらっている。地域で反対する方があればできない事業だと思う。
森づくり会議の組織について地区外者を構成員にする必要が、あるかどうか疑問である。準会員のような立場よいのではないかと思う。仲間に入れることは嫌ではないが、規約で縛られ、総会などに来ていただくのはお互いに大変なことだと思う。
また、作業道、林道は団地計画で利用間伐がないと作ってもらえないが、日常の管理にも必要である。山奥の山林で歩いていくことを考えると嫌になってしまう。管理費も出して、しっかり管理するしくみをつくるべきである。
自力間伐を増やす必要がある。補助金を増やせば、自力間伐する人も増えると思う。自分で山を管理することにより、林業の良さや必要性などわかって来ることもある。

○岡本会長　： それでは、ご質問、ご意見がありますか。

○●●委員　： 森づくり団地の構成は？

○説明者(矢澤代表)　： 60代中心。1人は山を購入した人が、街から来ている。
その他、街に行った息子さんも境界杭設置に来ている。森づくり会議は、外に出て行った人が、山を見る良い機会になっている。

○鈴木洌委員　： 私の地域でも、年2回、草刈など林道管理をしているが、何らかの支援がいただきたいと感じている。

〇説明者(矢澤代表) ： 作業道は5年経てば作り直せるというが、もったいない話で、日々管理していれば利用できるのである。

〇蔵治委員 ： 利用間伐は㎥あたりいくら儲かるものか。

〇中根副会長 ： イメージとして、利用間伐に対する補助金の分だけ返せるという感じである。

〇岡本会長 ： 有難うございました。
それでは、現地の視察に向かいたいと思います。

前山団地の間伐状況、作業道の工事状況を視察

開会　16：00